

療養病棟の開設

名城病院長 早川 哲夫

名城病院では、この四月一日から四十七床の療養病棟を十階にオープンいたします。三・七床の一般病棟につきましては、これまで通り、病気の診断のために検査が必要な場合や病気が重く毎日点滴が必要な場合など、いわゆる急性期の病気に罹った患者さんに入院していただきます。療養病棟では、病気の診断もついで、治療により病気がおおよそ落ち着いた患者さんが入院いたします。注射や薬は殆ど必要がなくなり、後は「日くすり」が必要な時期にある方のための病棟です。注射や薬にわずらわされずに、病気がよくなり、それぞれの家庭に帰る前の準備をしていただく病棟です。医療保険の適用があり、入院期間は

六ヶ月以内となります。入院三ヶ月を目途に家庭復帰できるように、スタッフ一同お手伝いさせていただきます。療養病棟に入院中に病気が急になった場合には、患者さんからのご希望により、一般病棟に移っていただき、検査や治療を受けることもできますし、一・二日様子をみることもできます。今まではひと味違ったゆとりとした気持ちで療養に専念できる病棟を心がけてまいりますので、ご期待ください。

療養病棟に関するお問い合わせ等ありましたら、医療ソーシャルワーカー小林までご連絡ください。

《電話》
(052) 201-5311
《Fax》
(052) 201-5018



医療ソーシャルワーカーのご案内

《受付時間》
月曜日～金曜日
午前9時から午後4時まで
(面接は予約制です)

病気になると、さまざまな心理的・社会的ストレスが生じて悩まされることが少なくありません。

当院では医療ソーシャルワーカーが、病気やけがによって生じる不安や心配ごとを、よくお話をうかがい、社会福祉の立場から一緒に考え、解決のお手伝いをしていきます。

また、平成15年4月から当院10階に療養病棟がオープンします。入院のお申し込みと相談もはじめております。お気軽にご相談ください。

たとえばこんな時に

- 病気についての不安
- 入院に関する心配
- 退院後の療養生活について心配
- 介護保険について知りたい
- 家族の悩み
- 福祉制度について知りたい
- 医療費・入院費の心配

《利用方法》相談希望の方は、医師、看護師、その他職員までお申し出ください。相談内容についての秘密は守ります。

背骨の曲がりと姿勢

整形外科部長 川上紀明

整形外科外来診療をしているとよく背中が出っ張っている、背骨が曲がっていると訴え、お母さんと一緒に子供さんが訪れます。話をしていると多くのお母さん達の頭の中には、姿勢が悪いから背骨が曲がったとの思い込みがあるのに気付きます。本当に姿勢が悪いと背骨が曲がるのでしょうか？この紙面を借りて姿勢と背骨の曲がりについて述べたいと思います。

背骨が曲がり変形する病気にはいろいろな種類があり、その発生する時期からみてみますと、①出生時に既に存在する(先天性)、②成長期に生じる、③成壮年期になり徐々に生じる(変性性)、④老年期の高齢者に発生しやすい圧迫骨折や骨粗鬆症などの変化により生じるものなど、に大きく分けることができます。

このうち姿勢と強く関係するものは何かと言われれば、それはまず成人以後に発生する変形と言えるでしょう。たとえば酪農や農業に長く従事してきた人達には背骨が丸い人が多く認められています。これは前屈みで長く仕事を行うことによって引き起こされる背筋の疲労性変化や筋萎縮と脊椎骨や椎間板のすり減りによって生じる脊柱後弯変形と考えられています。このように長時間にわたって前屈みの姿勢をとることは決して背骨に良いとはいえませんが、一般的にはどうでしょうか？殆ど

の人は途中で背中が張ってきて伸びをしたくなります。職業上で何年も前述した状況にさらされない限り、脊柱変形と言えるほどの病的な状態になることは実際それほど多くはありません。

成長期の子供の場合、背骨の変形を引き起こす疾患で最も多いのは特発性側弯症を代表とする側弯症です。これは背骨が捻れながら曲がってしまう病気で、不良姿勢では決して生じることはありません。お母さん達が気にする猫背についても、前述したような前屈みの姿勢を長く保つ状況は子供においてほとんどなく、直接将来背中の曲がりにつながることは少ないと考えられています。

もちろん、姿勢が良いにこしたことはありません。将来の腰痛、肩こりなど、背骨のトラブルも少なくなり外見的にも良いことは明らかです。しかし、子供に対して「姿勢が悪い、姿勢が悪い」とストレスを与えることが「心の歪み」を引き起こす引き金となり得ることも忘れてはいけません。近年の社会情勢を考えると子供を取り巻く環境はその精神を過度のストレス状態に陥らせていると言っても過言ではありません。この文章を読むことでもう一度自分の子供時代を振り返りながら、姿勢について考える契機になれば幸いです。

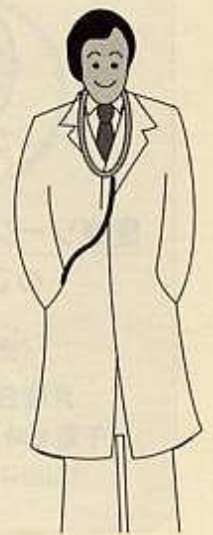
小児循環器科の現状

私は、昨年10月から当院に勤務させていただいております。約10年ほど前にも、一度、当院で2年半ほど勤務させていただいており、古巣に帰ってきた思いです。

私は、小児科としてのほとんどを小児循環器(小児の心臓病)に携わってきました。今回、当院にて小児科・小児循環器医長となり、一般小児科として小児の風邪、インフルエンザなどの感染症の治療も行い、小児循環器科の患者さんの治療に当たっています。

小児循環器科は、主に先天性(生まれつき)心疾患、不整脈、それと川崎病等の病気を扱っております。先天性の心疾患では、当院は東海地域の先駆けとして、中心的な役割を果たしてきました。そのため、成人になった先天性心疾患の患者さんが多く、根治手術を行った患者さん、根治手術のできない患者さんを含めて長期的な先天性心疾患の患者さんを多く診察させていただいており、よりよい診療に心がけています。

先天性心疾患は、治療していく上で、手術というものが必要となる場合があります。心臓血管外科と連携をとりながら治療に当たっています。



クリティカルパスについて

小児科・
小児循環器医長 小川 貴久

最近は、一部の疾患で、手術を行わず、カテーテルという管を用いて治療ができるようになってきました。代表的なのは、肺動脈弁狭窄に対する治療です。肺動脈弁が生まれつきせまい患者さんに対して、カテーテルの先にバルーンが付いた治療器具を用い、せまい場所で拡大することにより肺動脈弁のせまいところを広げます。もう一つは、動脈管開存症という管が、大動脈と肺動脈につながっている患者さんに対する治療です。この管を閉鎖するために、コイルという金属を用いて閉鎖します。このようなカテーテルを用いた治療は、細い管を足の付け根から入れて治療するために、手術による傷がなく、回復するのにかかる時間が短いため、入院期間も短くすむという利点があり、さらに

いろんな疾患に拡大されて
いると考えられます。

今後も、小児科のスタッフと一緒によりよい治療を心がけていきたいと思っております。



クリティカルパスの定義として一番よく知られているのは「医療チームが共同で開発した、患者の最良のマネジメントと信じた仮説」というものです。こう書くと何のことかと思われるかもしれませんが、要は医師や看護師といった患者さんの治療にあたるスタッフが、疾病ごとに入院から退院までの最も適切だと考える治療方法を標準化した一種の手順書のことです。この導入によって、患者さんは自分の入院から退院までどのような過程をとるかがはっきり把握できますし、医療スタッフの側も患者さんに質の高い均一的な治療を行うことができます。

当院におけるクリティカルパス（以下パスと略す）の開始は、各科医師と看護師たちの業務改善の声からはじまっていきました。同じ検査・治療を受ける患者さんに対して、均一的な治療とケアの提供を目的としてパスの様式を作成し使用していました。しかしその現状は、一部に留まったままでした。

そこで、パス委員会を平成14年4月より発足しました。その課題は、パスの推進・使用方法の改善・当院での統一等でした。まず、各科の現状を話し合い、様式がバラバラである現状を知りました。そして、多くをパスで行っている科と、まったくパスを利用していない科があることがわかりました。厚生労働省の記している最低限の項目を取り入れることだけを統一し、他は各科バラバラの様式

11階病棟主任 近藤 康子

のまま少しでも多くのパスの作成を推進しました。また、愛知県クリティカルパス研究会に参加して他施設における現状と問題点を知りました。4～5年前よりパスへの取り組みが行われ、問題点を踏まえて改善されたパスの使用、そして新たなる問題点に向けての取り組みが行われていました。当院の遅れを感じました。また、事務職が委員会の構成メンバーの主体となっている施設では様式の統一や、コンピューターへの取り組みが行われ、自分の必要なパスがその都度コンピューターから取り出し使用することができるようになっていました。

こうした結果、現在では多くの疾患や検査入院においてパスが使用されるようになり、当病棟でも白内障などの眼科系疾患では、100%近くパスが利用されています。しかしながら病院全体でのパスの様式の統一が進まないまま、それぞれの様式のそれぞれの使用方法が用いられている現状があり、これはパスを作成した以外の人を利用する場合、混乱を起しやすいためです。今後、平成15年度より療養病棟が開設されることにより行われる勤務交代に向けてパスの統一が望まれます。

今一度パス本来の目的を考え、治療効果UP・ケア向上・患者サービスの向上などのために、作成者の労力に敬意を払いながら、名城病院統一のパスへと変わっていかねばならない時期と感じます。



ご存知ですか？ 「やさしさマーク」

名古屋市ではだれもが安心して快適に利用できるような整備が進んだお店や施設に対し、「やさしさマーク」を交付しています。

例えば段差のない出入口、エレベーター、手すりのある階段、車椅子を使用する方や親子連れの方にも使いやすいトイレ等の設備が整備されている施設に交付されます。

名城病院は、平成13年1月から新しい施設になり、平成14年5月に名古屋市に対象になるか問い合わせしたところ、現地調査をしますとの回答を得ました。同年8月に名古屋市健康福

祉局障害福祉部障害施設課により当院の施設が福祉環境整備基準を満たされているか調査が実施されました。当日は、病棟、外来診察室、エレベーター、エスカレーター、トイレ、階段、駐車場等の施設が高齢者や障害者・車椅子使用者等に利用しやすく配慮されているかどうかを調査しました。調査の結果、当院は名古屋市の施設基準に適合しているとの回答を得て、平成14年8月16日に「標示板交付申請書」を提出し平成14年9月12日に標示板交付書の交付を受けました。それに伴い、「福祉環境整備基準適合名古屋市」

医事課長 牧野輝久

の標示板を1階玄関の車椅子置き場に標示し、シールは各ドアに貼付してあります。

この「やさしさマーク」の交付を受けたことにより、当院は名古屋市より、人にやさしく、ぬくもりに満ちた快適な施設として認定されました。あとは、それに伴うソフト面として職員一人ひとりが、このマークの趣旨を理解し患者さんや体の不自由な方々に思いやりを込めて接し、名城病院が思いやりのある病院として患者さんに認められる病院となるよう頑張りたいと思います。

病棟配置変更 のお知らせ

平成15年4月1日より、10階病棟が療養病棟として、衣替えいたします。それに伴い、病棟配置が右記の通り変更となりますので、ご理解の程よろしくお願いたします。

12階	小児科・泌尿器科・特別室
11階	内科・泌尿器科・歯科口腔外科・耳鼻科・眼科
10階	療養病棟
9階	内科・皮膚科
8階	外科・脳神経外科
7階	整形外科
6階	循環器センター（循環器科・心臓血管外科）
5階	産婦人科
4階	ICU

名城病院診療等のご案内

■ 診療科目

内科・循環器科・小児科（小児循環器）・外科・整形外科
脳神経外科・心臓血管外科・皮膚科・泌尿器科・産婦人科・眼科
耳鼻咽喉科・歯科口腔外科・（精神科）・（神経内科）・（麻酔科）・（放射線科）

※カック書き診療科及び午後の診療等、詳しくは 医事課（052）201-5311 内線2132 にお問い合わせ下さい。 URL <http://www.kkr.or.jp/meiji>

■ 診察受付時間

新患受付 午前8:30～11:30まで
再来受付 午前8:00～11:30まで

■ 面会時間

平日 午後0:30～8:00まで 但し、小児科病棟は、午後7:00まで
土・日・祝 午後0:30～1:30まで
ベビーの面会は、午後3:30～4:30まで } の3回です。
午後6:30～7:30まで

■ 診療案内

休診日 土曜日・日曜日・祝日
年末年始（12月29日～1月3日）・創立記念日（11月6日）

編集後記

早いものでもう年度末、お待たせしました。すいませんやっとなら第6号の発行です。どうしてこんなに忙いのでしょうか。編集委員会が2回開催されればすぐ発行できるのに？

当院も新棟になって2年が過ぎ、やっと患者様も職員も建物に馴染んできましたが、4月から新たに10Fが療養病棟として出発し、その関係で病棟再編成があり少々運用面で混乱があるのではないかと心配しています。また4月からの診療報酬改定による影響など色々やる事が沢山ありますが全職員が力を合わせどんな状況に置かれてもそれに負けないだけの力を蓄えたいものです。次号は頑張ってください。期待して下さい。

2003年3月 M.T.